

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 5 年計画の 5 年目)

## 1. 研究課題

(和文) ト라우マ経験と記憶の組織化をめぐる領域横断的研究 物語からモニュメントまで

(英文) Trans-disciplinary Studies of Organizing Traumatic Experiences and Memories: From Narratives to Monuments

## 2. 研究代表者氏名

田中 雅一

## 3. 研究期間

2010年04月 - 2015年03月 (5年度目)

## 4. 研究目的

なぜトラウマ(心的 外傷)なのか。トラウマの原因は、幼児のころの虐待、家庭内暴力、学校でのいじめ、暴力行為、とくに 戦争での経験、犯罪や事故、自然災害などである。本研究では、トラウマをより広い意味で苦悩 (suffering) や痛み(pain)とみなす。この苦悩に対し人びとがどのような形で対峙し、克服しようとしてきたかについて 考えてみたい。この過程をここでは組織化と表現する。トラウマは一般に心理学や精神医学が対象とする問題領域であるが、組織化という過程はこれらの領域にとどまるものではない。なお、トラウマや PTSD などの医療用語が、日常的に使われるようになって久しい。心理学や精神医学用語が普及していった理由は、わたしたちの世界が「脱神学化」してきたことを意味している。そのような状況でト ラウマについてあえて考察することは、現代日本社会の分析にも貢献することになるろう。

## 5. 本年度の研究実施状況

本年度は、5年間続いた本研究会の最終年度であるため、4月に代表者の田中が、4年間の総括と論文集の構成を提案した。またイスラエルからの研究者を招聘し、パレスチナとイスラエルとの和解の問題、イスラエル国民にとっての集合的な経験について議論を深めた。前期は、執筆予定となる成果論文についてアンケートをとり、全体の構成について議論を重ねた。後期に研究会を開催し、これまで発表していない執筆者や、発表内容と異なるテーマで執筆を予定しているメンバーについて発表を依頼した。これは11月と3月に行った。また、総合地球環境学研究所のプロジェクトと連携して国際ワークショップを10月に開催した。

8. 共同研究会に関連した公表実績

【国際ワークショップ】「放射能汚染と被ばくに立ち向かう：被害とその不確実性をめぐって」期日：2014年10月11日（土） 13:30-17:30 場所：人文科学研究所 発表者とタイトル：根本雅也（一橋大学）「放射線をめぐる不確実性と原爆被爆者」、石山徳子（明治大学）「アメリカ合衆国の原子力問題と環境正義」、細川弘明（京都精華大学）「核開発と少数民族・先住民族」、間間元（静岡県保険医協会）「ビキニ核実験被害の医学的考察」 コメンテーター：ステーション智子（アメリカ合衆国議会図書館）竹峰誠一郎（明星大学） 司会・コーディネーター：中原聖乃（中京大学）、田中雅一（京都大学）

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機 関 数	参加人数					延べ人数				
		総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数	総 計	外 国 人	大 学 院 生	若 手 研 究 者	女 性 数
所内	1	7	0	0	5	7	22	0	0	16	12
学内(法人内)	4	10	0	5	0	6	13	0	12	0	6
国立大学	4	11	0	2	1	5	18	0	5	4	6
公立大学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
私立大学	6	9	1	2	2	5	12	3	5	6	7
大学共同利用 機関法人	1	2	0	0	2	1	6	0	0	6	4
独立行政法人 等公的研究機 関											
民間機関											
外国機関											
その他											
計	16	39	1	9	10	24	71	3	22	32	35

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	90
国際学術誌に掲載された論文数	20

※（ ）内には、拠点外の研究者による成果（内数）を記載

論文における重要な役割を果たした実績を示す必要がある場合

役割	
総論文数	0
国際学術誌に掲載された論文数	0

※ ( ) 内には、拠点外の研究者による成果 (内数) を記載

高いインパクトファクターを持つ雑誌等に掲載された場合

掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
PSYCHANALYSE	2	Amour en anamorphose — l'amour courtois et l'amour fou	kosuke TSUIKI
Interactional Mind	2	パラドックス介入の視点からみた認知行動療法—暴露法・マインドフルネス	花田里欧子ほか

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す

インパクトファクターを用いることが適当ではない分野等の場合

理由			
掲載雑誌	掲載論文数	主なもの	
		論文名	発表者名
理論と動態	1	聴きとられなかった言葉をめぐって —日本人「慰安婦」に関するフェミニズムの議論の批判的検討	木下直子
社会学雑誌、神戸大学社会学研究会	1	病いの語りを通して見る家族—韓国の乳がん患者の事例	澤野美智子
藍野学院紀要	1	ジェンダーと身体の間で苦悩する性の救済・性同一性障害の理解と看護ケアのための医療人類学	高垣雅緒

※拠点外の研究者については、発表者名にアンダーラインを付す